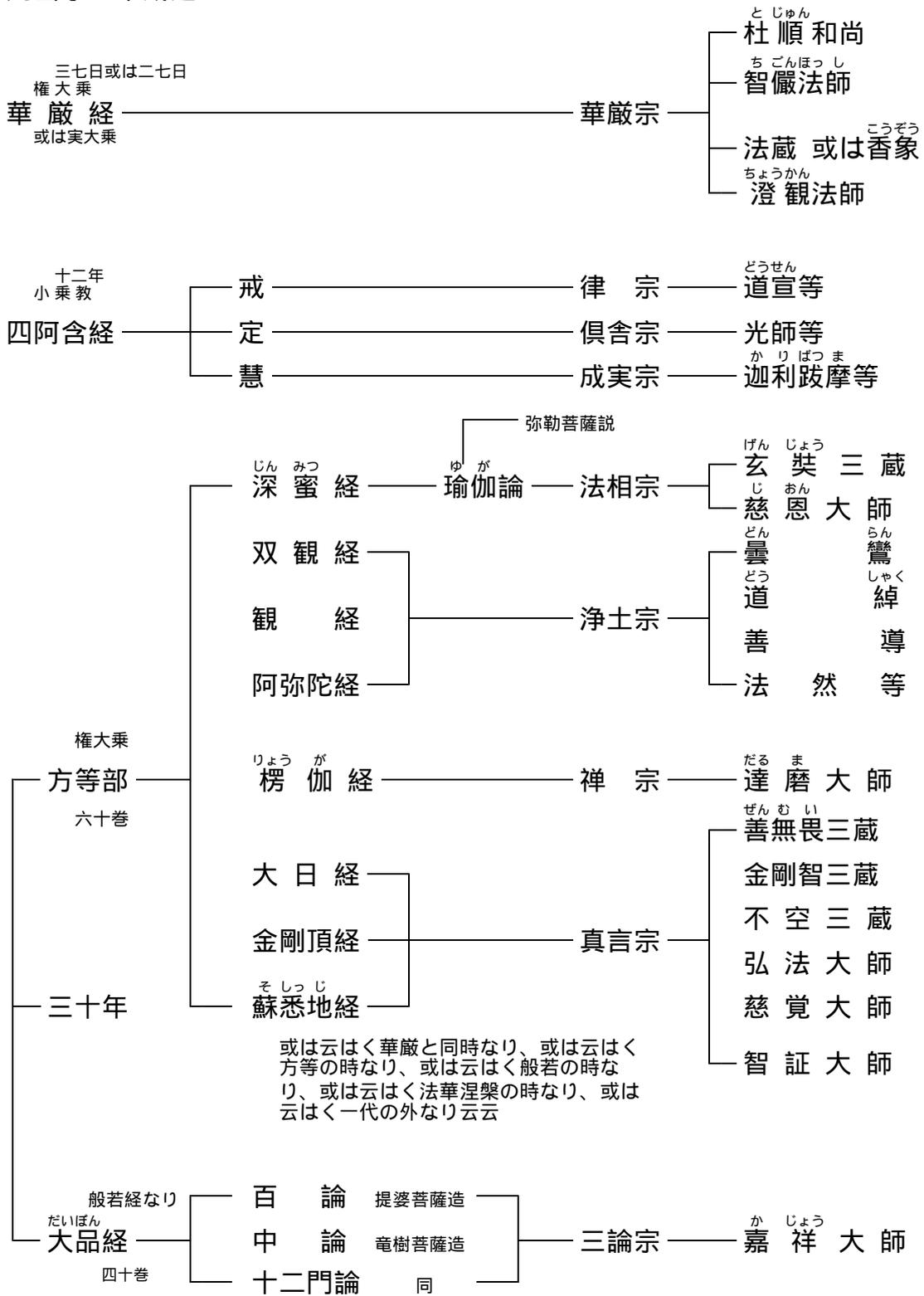


一代五時鶏図

弘安二年

五八歳

十九出家三十成道



無量義經に云はく「方便力を以て四十余年未だ眞実を顯はさず」

又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐるとも、終に無上菩提を成ずることを得ず。

ゆえん いかん じきどう けんぎょう る なん
所以は何。菩提の大直道を知らざる故に、険径を行くに留難多きが故なり」
又云はく「大直道を行けば留難無きが故に」

八箇年
実大乘
法華経——天台法華宗
仏立宗

「將に魔の仏と作りて我が心を悩乱するに非ずや」
「仏の所説の法に於て当に大信力を生ずべし。世尊は法久くして後、要らず当に眞実を説きたまふべし」
「正直に方便を捨て、但無上道を説く」
「種々の道を示すと雖も其れ實には仏乗の爲なり」
「今此の三界は皆是我が有なり。其の中の衆生は悉く是吾が子なり。而も今此の処は諸の患難多し。唯我一人のみ能く救護を爲す」
「若し人信ぜずして此の経を毀謗せば、即ち一切世間の仏種を断ぜん。或は復讐蹙して疑惑を懐かん」
「経を修行し書持すること有らん者を見て、輕賤憎嫉して結恨を懐かん。其の人命終して阿鼻獄に入らん」
「薬王今汝に告ぐ。我が所説の諸経、而も此の経の中に於て法華最も第一なり」
「爾の時に仏復薬王菩薩摩訶薩に告げたまはく、我が所説の經典無量千万億にして、已に説き今説き當に説かん。而も其の中に於て此の法華経は最も爲れ難信難解なり」
「爾の時に宝塔の中より大音声出だして歎めて言はく、善きかな善きかな釈迦牟尼世尊、能く平等大慧、教菩薩法、仏所護念の妙法華経を以て、大衆の爲に説きたまふ。是くの如し是くの如し、釈迦牟尼世尊、所説の如きは皆是眞実なり」
「爾の時に世尊、文殊師利等の一切衆の前に於て大神力を現じたまふ。広長舌を出だして上梵世に至らしめ」
又云はく「十方世界。衆の宝樹の下の師子座上の諸仏も、亦復是くの如く、広長舌を出だし無量の光を放ちたまふ」

